

〔説明事項〕

- 成績評価に算入されるかどうかは、シラバスとそれに基づく授業期間中の説明に従います。
算入されない場合には、これはワーク（練習問題、ミニッツペーパー）です。※授業中に完了しなかった場合には課題となることがありますが、成績評価に算入されない場合には「練習問題としての課題」ということになります。
- ただし、いずれにしても試験（まとめのテストや定期試験）の設問として利用される可能性が高いです。
- 回収する場合には、その都度指示します。紙で提出する際は、携帯で写真を撮って提出してください（返却されません）。提出の際には、日付、氏名、学籍番号を書いてください。回収された答案の中から、お手本・参考となるものを氏名と学籍番号なしで授業で利用させてもらうことがあります。サンプル答案として利用されることを望まない人は、その旨を伝える欄が解答箇所にあるので、そこにレ点を記入してください。
- 正解・解き方・解答例は、後日（または当日）、講義で説明します。さらに、後日、担当教員の個人 Web サイト（下で説明）の「Education」のページに（設問とともに）アップされます。
- 連絡事項などは、大学の教務システム（UNIPA など）にアップされます。
- この科目の各種教材・資料は、担当教員の個人 Web サイトの「Education」ページにアップされます（ダウンロードも可能）。下の QR コードを読み込むか、URL を入力してアクセスし利用してください。さらに、ブックマークして予復習などに利用してください。

URL=<http://junmaeda.sakura.ne.jp/index.html>



◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 01 回 設問

以下の問いの左右の為替レートを比較したときに、左のレートの方が右のレートよりも、円高ならば 1 を、円安ならば 2 を解答しなさい。

例題

問 00. $\$1 = ¥80$ 、 $\$1 = ¥100$ ⇒解答〔 1 〕

解説：同じ 1 ドルを買うのに、左のレートでは少ない円で買える。つまり、円の値打ちが高くて、ドルを買うパワーが強い。よって、左の方が円高。※このようなレート表記では、円の側の数値が小さいと、円高。

問 01. $\$1 = ¥90$ 、 $\$1 = ¥100$ ⇒解答〔 〕

問 02. $\$1 = ¥90$ 、 $\$1 = ¥110$ ⇒解答〔 〕

問 03. $\$1 = ¥100$ 、 $\$1 = ¥80$ ⇒解答〔 〕

例題

問 00. リンゴ 1 個 = $¥80$ 、リンゴ 1 個 = $¥100$ ⇒解答〔 1 〕

解説：同じリンゴ 1 個を左の方が安く買えている（少ないお金で買えている、つまり、円の側の数値が小さい）。左がリンゴ安・円高、右がリンゴ高・円安。

問 04. リンゴ 1 個 = $¥70$ 、リンゴ 1 個 = $¥100$ ⇒解答〔 〕

問 05. リンゴ 1 個 = $¥60$ 、リンゴ 1 個 = $¥110$ ⇒解答〔 〕

問 06. リンゴ 1 個 = $¥110$ 、リンゴ 1 個 = $¥90$ ⇒解答〔 〕

例題

問 00. $\$20 = ¥2000$ 、 $\$30 = ¥2000$ $\Rightarrow$ 解答 [2]

解説：左のレートでは、同じ金額 2000 円を払っても、少ないドルしか貰えない（ドルが高い）。つまり、ドルを買う円の値打ちが低い（ドルを買うパワーが弱い）。

問 07. $\$30 = ¥2000$ 、 $\$40 = ¥2000$ $\Rightarrow$ 解答 []

問 08. $\$20 = ¥2000$ 、 $\$10 = ¥2000$ $\Rightarrow$ 解答 []

問 09. $\$20 = ¥2000$ 、 $\$15 = ¥1000$ $\Rightarrow$ 解答 []

※ヒント：円の側の数値を 2000 に揃えるために、右の式の両辺に、2 を掛ける。

以下の問いの左右の為替レートを比較したときに、左のレートの方が右のレートよりも、ドル高ならば 1 を、ドル安ならば 2 を解答しなさい。※ € は、欧州の単一通貨・ユーロを表す記号。

例題

問題 00. $€1 = \$1.5$ 、 $€1 = \$2.0$ $\Rightarrow$ 解答 [1]

解説：同じ 1 ユーロを買うのに、左の方が少ないドルで買うことができる。つまり、ユーロを買うドルの値打ちが高い（ユーロを買うドルのパワーが強い）。

問 10. $€1 = \$1.7$ 、 $€1 = \$2.0$ $\Rightarrow$ 解答 []

問 11. $€1 = \$3.0$ 、 $€1 = \$2.0$ $\Rightarrow$ 解答 []

問 12. $€2 = \$3.0$ 、 $€2 = \$4.0$ $\Rightarrow$ 解答 []

問 13. $€2 = \$3.0$ 、 $€3 = \$5.0$ $\Rightarrow$ 解答 []

※ヒント：ユーロかドルのどちらかの数値を合せる。たとえば、左の式の両辺を 3 倍、右の式の両辺を 2 倍して比較する。

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 02 回 設問

以下の問いに半角数字で解答しなさい（式ではなく数値のみを解答し、「円」などの文字を入れないこと）。なお、RMB は中国の通貨・人民元（Renminbi）、BHT はタイの通貨・バーツ、€ は、欧州の単一通貨・ユーロ、£ はイギリスの通貨・ポンドスターリングを表す記号である。

例題

問題 00. $\$1 = \text{RMB}5$ 、 $\$1 = \text{¥}100$ 、のとき 1 人民元は何円か？（クロスレートを求めなさい）

解説：両式では、左辺がどちらも 1 ドルなので、右辺同士も等しい。つまり、 $\text{RMB}5 = \text{¥}100$ となる。両辺を 5 で割ると、 $\text{RMB}1 = \text{¥}20$ つまり、答えは 20。

問 01. $\$1 = \text{RMB}10$ 、 $\$1 = \text{¥}140$ 、のとき 1 人民元は何円か？ ⇒解答〔 〕

問 02. $\$1 = \text{RMB}6$ 、 $\$1 = \text{¥}180$ 、のとき 1 人民元は何円か？ ⇒解答〔 〕

問 03. $\$1 = \text{BHT}30$ 、 $\$1 = \text{¥}120$ 、のとき 1 バーツは何円か？ ⇒解答〔 〕

問 04. $\$1 = \text{BHT}40$ 、 $\$1 = \text{¥}120$ 、のとき 1 バーツは何円か？ ⇒解答〔 〕

例題

問題 00. $\$1 = \text{¥}140$ 、 $\text{€}1 = \$1.1$ 、のとき、1 ユーロは何円か？（クロスレートを求めなさい）

解説：両式にはドルが共通して存在するので、ドルを橋渡しにしてユーロと円の関係を求める。そこで、ドルの大きさを揃えるために、前の式の両辺に 1.1 を掛けると、 $\$1.1 = \text{¥}140 \times 1.1$ 、となる。よって、 $\text{¥}140 \times 1.1 = \text{€}1$ 、となるので、答えは 154。

問 05. $\$1 = \text{¥}130$ 、 $\text{€}1 = \$1.1$ 、のとき、1 ユーロは何円か？ ⇒解答〔 〕

問 06. $\$1 = \text{¥}150$ 、 $\text{€}1 = \$1.2$ 、のとき、1 ユーロは何円か？ ⇒解答〔 〕

問 07. $\$1 = \text{¥}130$ 、 $\text{£}1 = \$1.1$ 、のとき、1 ポンドは何円か？ ⇒解答〔 〕

問 08. $\$1 = \text{¥}120$ 、 $\text{£}1 = \$1.2$ 、のとき、1 ポンドは何円か？ ⇒解答〔 〕

問 09. $\$1 = ¥100$ 、 $£1 = \$1.1$ 、のとき、1 ポンドは何円か？ ⇒解答 []

※以下、復習問題。下の各レート of 左右を比較したときに、左のレートの方が右のレートよりも、円高ならば 1 を、円安ならば 2 を解答しなさい。

問 10. みかん 1 個 = ¥80、みかん 1 個 = ¥100、 ⇒解答 []

※ヒント：みかんの値段は、左の方が安く、右のほうが高い。円の値段は、その逆という関係になる。

問 11. りんご 1 個 = ¥90、りんご 1 個 = ¥110、 ⇒解答 []

問 12. りんご 1 個 = ¥200、りんご 1 個 = ¥100、 ⇒解答 []

問 13. みかん 1 個 = ¥100、みかん 1 個 = ¥90、 ⇒解答 []

※以下、復習問題。下の各レート of 左右を比較したときに、左のレートの方が右のレートよりも、みかん高ならば 1 を、みかん安ならば 2 を解答しなさい。

問 14. みかん 1 個 = りんご 5 個、みかん 1 個 = りんご 8 個、 ⇒解答 []

問 15. みかん 1 個 = りんご 4 個、みかん 1 個 = りんご 3 個、 ⇒解答 []

問 16. りんご 1 個 = みかん 6 個、りんご 1 個 = みかん 9 個、 ⇒解答 []

問 17. りんご 1 個 = みかん 8 個、りんご 1 個 = みかん 5 個、 ⇒解答 []

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 03 回 設問

国際収支統計に関する以下の各文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 国際収支統計はストック（残高）統計である。 ⇒解答〔 〕

問 02. 「居住者」は「いじゅうしゃ」と読む。 ⇒解答〔 〕

問 03. アメリカ企業の日本支店は、日本の居住者である。 ⇒解答〔 〕

問 04. 日本の中国への輸出は、中国にとっては日本からの輸入である。 ⇒解答〔 〕

問 05. 国際収支統計は、経営収支、資本移転等収支、金融収支で構成されている。

⇒解答〔 〕

問 06. 国際収支統計は、複式簿記の原理で作成されている。 ⇒解答〔 〕

問 07. 外国から日本に短期間、旅行に来ている人たちは日本にとっては非居住者である。

⇒解答〔 〕

問 08. 経常収支の内訳（うちわけ）は、貿易・サービス収支、第一次所得収支、第二次所得収支である。 ⇒解答〔 〕

問 09. 金融収支は、直接投資、証券投資、金融派生商品、その他投資、外貨準備から構成されている。 ⇒解答〔 〕

問 10. 国際的なサービス取引とは、たとえば、外国の企業との契約の際に、値引きなどの措置をとることである。 ⇒解答〔 〕

問 11. 直接投資とは、企業が外国に拠点を持って、直接、ビジネス展開をすることである。

⇒解答〔 〕

問 12. 貿易収支とは、有形の商品つまり財の輸出入を計上するものであり、サービス取引は貿易収支には記録されない。 ⇒解答〔 〕

問 13. 外国から来ている人の労働によって雇い主が利益を得た場合、経常収支の中の第一次所得収支に、雇用者報酬として計上される。 ⇒解答〔 〕

問 14. 第一次所得収支は、主に雇用者報酬、直接投資収益、証券投資収益などで構成されている。 ⇒解答 []

問 15. 利子・配当の国際的なやりとりは、第一次所得収支に計上される。

⇒解答 []

問 16. 第二次所得収支には、そのベースとなる経済活動がない無償での資産のやりとりが記録される。たとえば、政府開発援助やチャリティーや義援金や仕送りなどである。

⇒解答 []

問 17. 外貨準備とは、国や民間企業が持つ外貨建ての資産のことである。

⇒解答 []

問 18. さまざまな国際的な経済取引に伴う決済は、金融収支の中の「その他投資」に記録される。 ⇒解答 []

問 19. 直接投資や証券投資そのものは、第一次所得収支ではなく、金融収支に記録される。

⇒解答 []

問 20. 日本に所在する企業（本店）が、アメリカに所在する支店から財を輸入した場合は、同じグループ企業内の取引にすぎないので、国際収支統計には計上されない。

⇒解答 []

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 04 回 設問

国際収支統計に関する以下の各文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 国際収支統計は複式簿記の原理によって作成されるので、たとえば、財の輸出については、貿易収支に輸出（＋）として記録されるとともに、その代金の決済については、金融収支のその他投資に、代金の受取り（＋）として記録される。このように、一つの取引が、その取引そのものと代金の決済という具合にそれぞれ一箇所、計二箇所に記録される。

⇒解答〔 〕

問 02. さまざまな国際的な取引の決済では、銀行の口座が主に使われる。こうした決済を進めるために、銀行が他の国の銀行との間で解説する預金のことをコーレル預金という。

⇒解答〔 〕

問 03. 経常収支＋資本移転等収支＋誤差脱漏＝金融収支である。 ⇒解答〔 〕

下の図は、日本の企業 A がアメリカの企業 B に財をドル建てで輸出して、その代金をそれぞれの取引銀行である甲と乙を経由して決済した様子を描いたものである。図をみて、各問いに答えなさい。なお、各国内での決済は、それぞれの国の通貨で行われるものとする。

問 04. B から乙への支払いは、ドル建てか円建てか。ドル建てなら 1 を、円建てなら 2 を解答しなさい。 ⇒解答〔 〕

問 05. 乙から甲への支払いは、ドル建てか円建てか。ドル建てなら 1 を、円建てなら 2 を解答しなさい。 ⇒解答〔 〕

問 06. 甲から A への支払いは、ドル建てか円建てか。ドル建てなら 1 を、円建てなら 2 を解答しなさい。 ⇒解答〔 〕



上の図の説明として、以下の文が正しければ1を、間違っていれば2を解答しなさい。

問 07. 乙から甲への支払いは、甲が乙に持つドル建ての預金を使って行われる。

⇒解答 []

問 08. 乙から甲への支払いは、甲が乙に持つ円建ての預金を使って行われる。

⇒解答 []

問 09. 乙から甲への支払いは、乙が甲に持つドル建ての預金を使って行われる。

⇒解答 []

問 10. 乙から甲への支払いは、乙が甲に持つ円建ての預金を使って行われる。

⇒解答 []

問 11. 乙から甲への支払いは、口座振込みで行われる。 ⇒解答 []

問 12. A から B への輸出は国際収支統計の貿易収支に記録され、乙から甲への支払いは金融収支のその他投資に記録される。 ⇒解答 []

第 05 回 設問

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

以下の問 01 から問 07 の文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。問 08 以降は数値を半角で解答しなさい。

問 01. 国際間の決済には、大きく分けて並為替と逆為替がある。 ⇒解答〔 〕

問 02. 並為替とは、国際間での支払いの方向と、為替手形・小切手が流れる方向が逆であるものをいう。 ⇒ 解答 []

問 03. 並為替は、取立為替ともいい、逆為替は、送金為替ともいう。 ⇒ 解答 []

問 04. 銀行の間での国際的な支払いは、主に銀行同士で開設している預金口座を使われる。その際、支払う通貨の母国に所在する銀行に開設されている口座が、使われる。

⇒解答〔 〕

問 05. 日本人がアメリカ旅行で買い物をしてクレジットカードで支払った場合、アメリカ所在の銀行から日本所在の銀行へドルが支払われる。 ⇒解答 []

問 06. アメリカの中央銀行の名称は、合衆国準備銀行である。 ⇒解答〔 〕

問 07. 同一国内の銀行間の支払いは、両銀行が中央銀行に置いている預金の振替えで行われる。

⇒解答〔 〕

問 08. あなたは、甲銀行に口座を持っていて、電気料金は口座振替えで電力会社 B に支払われるとする。振替え前の口座の残高を下記の貸借対照表（バランスシート）で表す。この状態から、7000 円があなたの口座から B 社に振り替えられたら、あなたの預金の残高は結果としていくらになるか、数値で解答しなさい（「円」などの単位やカンマは不要）。

⇒あなたの預金〔 〕円に変化。 ⇒B社の預金：37000円に変化。

銀行 甲	
	あなたの預金 14000
	B社の預金 30000

問 09. 当初、銀行乙が銀行甲に持つ預金が下の貸借対照表の状態だとする。ここから、乙が甲に8000を支払うと、乙の預金残高は結果としていくらになるか、数値で解答しなさい（「円」などの単位やカンマは不要）。 ⇒解答〔 〕

銀行 甲	
	乙の預金 10000

問 10. 当初、銀行乙が銀行甲に持つ預金が下の貸借対照表の状態だとする。ここから、甲が乙に5000を支払うと、乙の預金残高は結果としていくらになるか、数値で解答しなさい（「円」などの単位やカンマは不要）。 ⇒解答〔 〕

銀行 甲	
	乙の預金 10000

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 06 回 設問

以下の文は、輸出入の際に使われる書類・有価証券を説明したものである。それぞれに対応する語句を下の選択肢のボックスから選び、番号で解答しなさい。

問 01. 貨物の明細書、説明書。 ⇒解答〔 〕

問 02. 船会社が発行する有価証券で、貨物を受け取る権利証。 ⇒解答〔 〕

問 03. 輸送の際にかける保険の証書。 ⇒解答〔 〕

問 04. 代金を取り立てる役割を果たす有価証券。 ⇒解答〔 〕

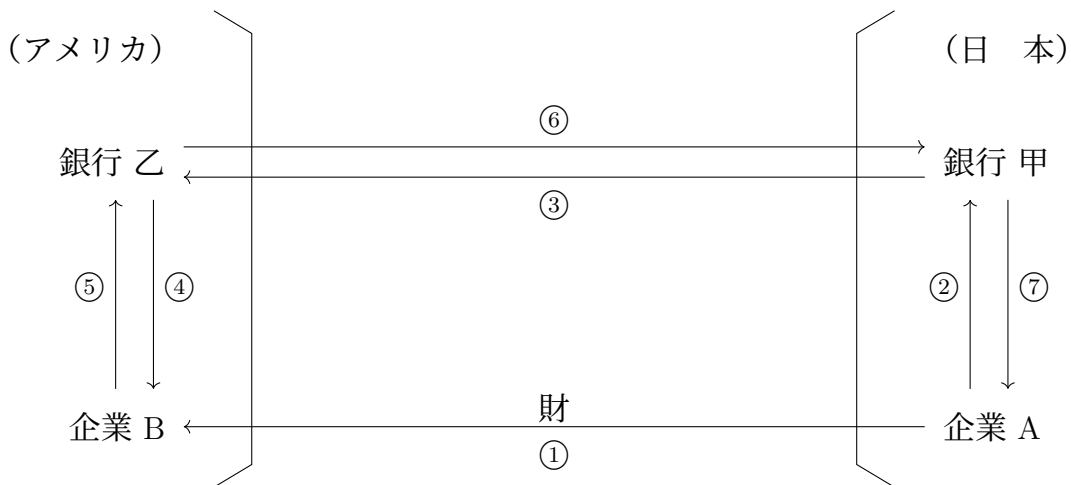
問 05. 主に送り状、船荷証券、保険証券から成る書類群。 ⇒解答〔 〕

問 06. 船積書類を伴った為替手形。 ⇒解答〔 〕

選択肢

1 送り状、 2 保険証券、 3 荷為替、 4 為替手形、 5 船荷証券、 6 船積書類

下の図は、日本の企業 A が、アメリカの企業 B に財を輸出して、それに伴う各種の書類・有価証券と代金の決済の手順を示したものである。番号は順番を表している。①以下の取引の内容を説明した文として、それぞれ適切なものを選択肢から選び、番号で解答しなさい。



問 07. ②に該当する説明はどれか、番号で解答しなさい。 ⇒解答 []

問 08. ③に該当する説明はどれか、番号で解答しなさい。 ⇒解答 []

問 09. ⑤に該当する説明はどれか、番号で解答しなさい。 ⇒解答 []

問 10. ⑥に該当する説明はどれか、番号で解答しなさい。 ⇒解答 []

問 11. ⑦に該当する説明はどれか、番号で解答しなさい。 ⇒解答 []

選択肢

- 1：A は B に貨物を発送する。
- 2：B は乙に支払いをする。
- 3：甲は A に支払いをする。
- 4：乙は B に、書類を提示する
- 5：A は、甲に荷為替すなわち為替手形と船積書類を持ち込む。
- 6：乙は甲に支払いをする。
- 7：甲は乙に、荷為替を郵送する。

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 07 回 設問

直接投資について説明した以下の文が、正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 直接投資とは、企業が外国に直接、拠点を置いて、グローバルなビジネス展開をすることである。 ⇒解答〔 〕

問 02. 直接投資は、国際収支統計では金融収支に記録される。 ⇒解答〔 〕

問 03. 直接投資の結果の収益（所得）の国際的な受払い（受取りと支払い）は、金融収支に記録される。 ⇒解答〔 〕

問 04. 日本の企業が外国に支店・支社を作った場合は、日本の国際収支統計では、対内直接投資ということになる。 ⇒解答〔 〕

問 05. 円高は、日本の労賃を外国の労賃よりも相対的に割高にするので、日本企業の対外直接投資を促進する要因といえる。 ⇒解答〔 〕

問 06. 経済成長率が高い国に対しては、儲けを期待して、外国から直接投資が行われる傾向がある。 ⇒解答〔 〕

問 07. 外国からの投資に対して、特別な低税率を設ける国に対しては、直接投資が行われる傾向がある。 ⇒解答〔 〕

問 08. 内乱により治安が悪化している国に対しては、外国からの直接投資が増加する傾向がある。 ⇒解答〔 〕

問 09. 外国の企業の株式を 10 %以上購入する投資は、有価証券への投資なのだから、国際収支統計では、金融収支の有価証券の項目に記録される。 ⇒解答〔 〕

以下の文章のそれぞれの〔 〕に入る数値をそれぞれ解答しなさい。※数値のみを半角で解答すること。

中国の労賃が時給 30 元、日本の労賃が時給 900 円であると仮定する。為替レートが、 $\text{RMB1}=\text{¥}30$ だとすると、中国の労賃を円に換算すると、〔 ⑩ 〕円となり、日本の労賃を人民元に換算すると、〔 ⑪ 〕元になる。つまり、同一水準である。ところが、為替レートが、 $\text{RMB1}=\text{¥}15$ と円高になると、中国の労賃を円に換算すると、〔 ⑫ 〕円となり、日本の労賃を人民元に換算すると、〔 ⑬ 〕元になる。つまり、円に換算しても元に換算しても、日本の労賃が中国の〔 ⑭ 〕倍ということになる。日本の企業としては、割高の日本で生産をするよりも、労賃コストが安い中国に工場や支店・支社を移すインセンティブ（動機づけ）となる。このように、円高は日本からの対外直接投資を増加させる要因になりうる。

問 10. ⑩ への解答〔 〕

問 11. ⑪ への解答〔 〕

問 12. ⑫ への解答〔 〕

問 13. ⑬ への解答〔 〕

問 14. ⑭ への解答〔 〕

復習問題：以下の文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 15. $\$1=\text{¥}140$ のとき、2 ドルは 280 円である。 ⇒解答〔 〕

問 16. $\$1=\text{¥}140$ のとき、 α ドルは $140 \times \alpha$ 円である。 ⇒解答〔 〕

問 17. $\$1=\text{¥}140$ といったレート表記の場合、ドルを円に換算するときは、為替レート 140 で割り算する。 ⇒解答〔 〕

問 18. $\$1=\text{¥}140$ のとき、1400 円は 10 ドルである。 ⇒解答〔 〕

問 19. $\$1=\text{¥}140$ のとき、280 円は 2 ドルである。 ⇒解答〔 〕

問 20. $\$1=\text{¥}140$ といったレート表記の場合、円をドルに換算するときは、為替レート 140 を掛ける。 ⇒解答〔 〕

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 08 回 設問

外貨準備について説明した以下の文が、正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 外貨準備とは、通貨当局（財務省と中央銀行）および民間の金融機関が持つ外貨建ての資産のことである。 ⇒解答〔 〕

問 02. 貨幣用金^{きん}、IMF リザーブポジションは、外貨準備に含まれる。 ⇒解答〔 〕

問 03. 為替市場介入とは、民間銀行同士の為替取引に、中央銀行が割って入り、両者の取引レートを命令することである。 ⇒解答〔 〕

問 04. 外貨準備を増やす原因の一つは、中央銀行による為替市場での外貨買い・自国貨売りの介入である。 ⇒解答〔 〕

問 05. 中央銀行が為替市場で、外貨買い・自国貨売りの介入をする理由は、民間での取引で外貨高・自国貨安が著しくて、それにブレーキをかけたいからである。 ⇒解答〔 〕

下の文は、貿易収支の黒字が長期で続く国では、外貨準備が増加する傾向にあることを説明したものである。それぞれの〔 〕に入る適切な語句の候補が二つずつ、〔 〕内に書かれている。どちらの語句が正しいかを選択肢の番号（1 または 2）で解答しなさい。なお、丸囲みの数字は、設問の番号である。

ある国の企業が輸出をした場合、その代金の一部は外貨で受け取る。外貨を受け取った銀行や企業は、それを自国貨に替えようとしがちであり、⑥〔1 外貨売り・自国貨買い、 2 外貨買い・自国貨売り〕の注文を出すことになる。

反対に、ある国の企業が輸入した場合、その代金の一部は外貨で支払う。外貨を用意しなければならない銀行や企業は、⑦〔1 外貨売り・自国貨買い、 2 外貨買い・自国貨売り〕の注文を出すことになる。

貿易収支が黒字ということは、輸出総額が輸入総額よりも⑧〔1大きい、 2小さい〕わけだから、その国の外国為替市場では、外貨の売りが優勢となり、為替レートが⑨〔1外貨高・自国貨安、 2外貨安・自国貨高〕になっていく。言い換えると、外貨に対する供給が需要よりも多くて、外貨の値段が下がっていくことになる。

その国の通貨当局が、そうした傾向を好ましくないと判断した場合には、外貨に対する需要を作ってやろうとする。すなわち、民間の為替市場に自ら参加して、⑩〔1外貨売り・自国貨買い、 2外貨買い・自国貨売り〕の取引を民間銀行を相手に行う。このようにして、貿易収支の黒字が続く国では、外貨準備が増えていくのである。

問 06. ⑥ への解答 []

問 07. ⑦ への解答 []

問 08. ⑧ への解答 []

問 09. ⑨ への解答 []

問 10. ⑩ への解答 []

問 11. 日本の外貨準備が増加するケースは以下のどれか。選択肢から一つを選び、番号（半角数値）で解答しなさい。 ⇒解答 []

選択肢

- 1：ドル安・円高を嫌って、日本銀行がドル売り・円買いの介入をした場合。
- 2：ドル高・円安を嫌って、日本銀行がドル売り・円買いの介入をした場合。
- 3：ドル安・円高を嫌って、日本銀行がドル買い・円売りの介入をした場合。
- 4：ドル高・円安を嫌って、日本銀行がドル買い・円売りの介入をした場合。

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 09 回 設問

以下の文が正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 購買力平価とは、同種の財について、外国と自国の物価を等しくする為替レートのことである。 ⇒解答〔 〕

問 02. ある財の値段がアメリカで 10 ドル、同じ財が日本で 1400 円とする。この場合、購買力平価は、両者をイコールで結んで、 $\$10 = ¥1400$ 、つまり、 $\$1 = ¥140$ である。
⇒解答〔 〕

問 03. ある財の値段がアメリカで 1 ドル、同じ財が日本で 140 円とする。実際の為替レートが、購買力平価と一致していて、 $\$1 = ¥140$ とする。1400 円持っている日本人は、日本でこの財を 10 個買うことができるが、1400 円をドルに換えると 20 ドルになるので、アメリカの財は 20 個買うことができる。つまり、購買力は等しくない。 ⇒解答〔 〕

問 04. 購買力平価は、購買力平価と書いても同じ意味である。 ⇒解答〔 〕

例題

問題 00. 同一の財の価格が、アメリカで 20 ドル、日本で 2800 円のと看、購買力平価は、1 ドル当たり何円か。半角数値のみで解答しなさい。 解答⇒ $\$1 = ¥$ 〔 140 〕。

解説：購買力平価を求めるのは簡単で、とにかく同種の財の値段をイコールで結べばよい。この例題では、 $\$20 = ¥2800$ 、この両辺を 20 で割ると、 $\$1 = ¥140$ ということになる。つまり、答えは 140。

以下の価格の例から、購買力平価を求め、〔 〕に入る数値を解答しなさい。※半角数値のみで解答すること。

問 05. 同一の財の価格が、アメリカで 2 ドル、日本で 200 円。購買力平価は、 $\$1 = ¥$ 〔 〕。

問 06. 同一の財の価格が、アメリカで 3 ドル、日本で 450 円。購買力平価は、 $\$1 = ¥$ 〔 〕。

問 07. 同一の財の価格が、アメリカで 1 ドル、日本で 100 円。購買力平価は、 $\$1 = ¥$ []。

問 08. 同一の財の価格が、アメリカで 2 ドル、中国で 10 元。購買力平価は、 $\$1 = \text{RMB}$ []。

問 09. 同一の財の価格が、アメリカで 5 ドル、中国で 35 元。購買力平価は、 $\$1 = \text{RMB}$ []。

問 10. 同一の財の価格が、アメリカで 1 ドル、中国で 7 元。購買力平価は、 $\$1 = \text{RMB}$ []。

例題

問題 00. 同一の財の価格が、ドイツで 2 ユーロ、アメリカで 4 ドルのとき、購買力平価は、1 ユーロ当たり何ドルか。半角数値のみで解答しなさい。 解答⇒ $€1 = \$$ [2]。

解説：とにかく同種の財の値段をイコールで結べばよい。この例題では、 $€2 = \$4$ 、この両辺を 2 で割ると、 $€1 = \$2$ ということになる。つまり、答えは 2。

以下の価格の例から、購買力平価を求め、[] に入る数値を解答しなさい。※半角数値のみで解答すること。

問 11. 同一の財の価格が、ドイツで 3 ユーロ、アメリカで 9 ドル。購買力平価は、

$€1 = \$$ []。

問 12. 同一の財の価格が、ドイツで 3 ユーロ、アメリカで 3 ドル。購買力平価は、

$€1 = \$$ []。

第 10 回 設問

今回の設問群は、成績評価に算入するレポートです。事情により欠席する人に配慮して、締切りを授業日から約一ヵ月後とします。正確な情報は、UNIPA で確認すること。正解のフィードバックは、締切後になります。※複数回送信した場合には、最後のものが採用されます。

レポートの提出は、本設問集の最初のページに掲載されている QR コードを読み込み、アクセスしたサイトの「Education」ページの末尾「リアルタイム授業アンケート・ミニテストはこちら」をクリックして、解答用の Forms を使って行ってください。

為替レートを左右する要因について説明した以下の文が、あくまで理論的な説明として、正しいければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 為替レートは、長期では購売力平価に一致するという説を購売力平価説という。

⇒解答 []

問 02. お金の流れ（フロー）に注目して、たとえば金利が高い国の通貨は値上がりする傾向にあることを主張する立場は、フロー・アプローチと呼ばれている。 ⇒解答 []

問 03. お金の量が増えると、その国の通貨が値上がりする傾向にあることを主張する立場は、マネタリー・アプローチと呼ばれている。 ⇒解答 []

問 04. 金融資産の国際的な売買によって為替レートが左右されることを主張する立場は、アセット・アプローチと呼ばれている。 ⇒解答 []

次の文は、金利の差によって、為替レートが影響される様子を説明したものである。それぞれの [] に入る適切な語句や数値や式の候補が二つずつ、[] 内に書かれている。どちらの語句・数値が正しいかを選択肢の番号（1 または 2）で解答しなさい。

当初、アメリカの金利が年 3 % で、日本の金利が年 3 % と仮定する。為替レートが、 $\$1 = ¥150$ だとする。150 円持っている日本の投資家が、日本で一年間、金利 3 % で運用すると、⑤ [1. 150×0.03 、 2. $150 \times (1 + 0.03)$] 円となる。

この 150 円を上記の為替レートでドルに換えると、1 ドルになるので、アメリカで一年間運用すると、⑥ [1. 1.03、 2. 1×0.03] ドルとなる。その後、為替レートが変化していないと仮定

すれば、円に換えると、ちょうど $1.03 \text{ ドル} \times 150 \text{ 円}$ となり、日本で資金運用した場合と同じリターンになる。だから、この状態では、日米どちらで資金運用しても同じなので、為替取引は発生しにくい。

ところが、ここからアメリカの金利が 5 % に上昇したら、150 円を ドル買い・円売り して 1 ドルに替えて運用すると、一年後には ⑦〔1. 1.03 ドル、 2. 1.05〕ドルとなり、それを円に換えると、 $1 \times 1.05 \times 150 \text{ 円}$ となる。金利 3 % の日本で運用したら、 $1 \times 1.03 \times 150 \text{ 円}$ なので、明らかにアメリカで資金運用したほうが有利だ。

つまり、アメリカの金利が上昇したら、上記のように ドル買い・円売り が優勢になり、⑧〔1. ドル高・円安、 2. ドル安・円高〕になる。このように、金利が相対的に高い国の通貨は、値上がりする傾向があるといえる。

問 05. ⑤ への解答 []

問 06. ⑥ への解答 []

問 07. ⑦ への解答 []

問 08. ⑧ への解答 []

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 11 回 設問

円安が日本経済に与える影響について説明した以下の文が、あくまで理論的な説明として、正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 01. 円安とは、たとえば $\$1 = ¥100$ が $\$1 = ¥150$ になるというように、円の側の数値が大きくなることである。 ⇒解答〔 〕

問 02. 日本の財 A が 200 円で、為替レートが $\$1 = ¥100$ であれば、この財をアメリカに輸出した場合、(為替レートがストレートに反映されれば) アメリカでの価格は 2 ドルということになる。 ⇒解答〔 〕

問 03. 日本の財 A が 200 円で、為替レートが $\$1 = ¥100$ であれば、この財をアメリカに輸出した場合、アメリカでの価格は 2 ドルだが、為替レートが $\$1 = ¥200$ になれば、この財のアメリカでの価格は 4 ドルということになる。 ⇒解答〔 〕

問 04. 為替レートが、 $\$1 = ¥100$ から $\$1 = ¥200$ に変化したと仮定する。400 円の日本の財のアメリカでの価格は、4 ドルから 2 ドルに低下するので、この財はアメリカではあまり売れず、日本からのこの財の輸出数量は減少することになる。 ⇒解答〔 〕

問 05. 円安は、日本の財の外国への輸出数量を増やす要因となる。 ⇒解答〔 〕

問 06. 為替レートが、 $\$1 = ¥100$ から $\$1 = ¥200$ に変化したと仮定する。原油の価格が 1 バレル 80 ドルとすると、日本での価格は、1 万 6000 円から 8000 円に低下することとなる。
⇒解答〔 〕

問 07. 円安は、日本の輸入物価を安くするので、デフレの要因であるといえる。
⇒解答〔 〕

問 08. 円安は、外国の財の日本への輸入数量を減らす要因となる。 ⇒解答〔 〕

問 09. 円安は、長期で考えると、日本の貿易収支を改善する要因となりうる。
⇒解答〔 〕

問 10. 労賃がアメリカで時給 10 ドル、日本で時給 1000 円と仮定する。為替レートが、 $\$1 = ¥100$ ならば、アメリカの労賃を円に換算すると 1000 円、日本の労賃をドルに換算すると 10 ドルなので、どちらも同じ金額である。ここから、為替レートが $\$1 = ¥200$ に変化すれば、アメリカの労賃は日本円では 2000 円、日本の労賃はドルでは 5 ドルになる。つまり、日本でもアメリカでも、日本の労賃がアメリカの労賃の半分ということになる。そうすると、アメリカの企業としては日本に直接投資を行うインセンティブ（動機づけ）が強まる。 ⇒解答 []

問 11. 為替レートが、 $\$1 = ¥100$ から $\$1 = ¥200$ に変化したと仮定する。3000 ドルで日本に旅行にくる外国人にとっては、60 万円から 30 万円に減るわけだから、円安はインバウンド・ツーリズム（外国人が日本に旅行にくること）を減らす要因といえる。 ⇒解答 []

問 12. 円安は、日本人の海外旅行を減らし、外国人の日本への旅行を増やす要因である。
⇒解答 []

問 13. GDP の規模を外国と比較するときに、円安は日本の GDP を相対的に大きくする。
⇒解答 []

問 14. 為替レートが、 $\$1 = ¥100$ から $\$1 = ¥200$ に変化したと仮定する。ドル建ての資産を 1 万ドル持っている企業としては、100 万円から 200 万円になるのだから、為替差損が生じる。
⇒解答 []

問 15. 為替レートが、 $\$1 = ¥100$ から $\$1 = ¥200$ に変化したと仮定する。ドル建ての負債を 1 万ドル持っている企業としては、100 万円から 200 万円になるのだから、為替差益が生じる。
⇒解答 []

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 12 回 設問

日本の輸出入について説明した以下の文が、あくまで理論的な説明として、正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。※為替レートの変化は、輸出入の価格にすべて反映されると仮定する。

問 01. 日本の輸出先の国の景気が良くて経済成長が続いているならば、その国への輸出は増える。 ⇒解答〔 〕

問 02. 日本の景気が良くて経済成長が続いているならば、日本の輸入は減る。
⇒解答〔 〕

問 03. 円高は、日本の輸出数量を減らす要因となりうる。 ⇒解答〔 〕

問 04. 貿易収支は、輸出総額マイナス輸入総額である。 ⇒解答〔 〕

問 05. 輸出総額は、各財の輸出価格×その財の輸出数量をすべて合計したものであり、輸入総額は、各財の輸入価格×その財の輸入数量をすべて合計したものである。
⇒解答〔 〕

問 06. たとえば、 $\$1 = ¥100$ が $\$1 = ¥200$ という具合に円安になれば、1 ドルの財が 100 円で輸入されていたものが、半額の 50 円で輸入できることとなる。 ⇒解答〔 〕

問 07. 円安になって、各財の輸入数量が減ったとしても、各財の輸入価格がそれを相殺するほど上昇していれば、輸入総額はかえって増えることもありえる。 ⇒解答〔 〕

次の文は、IS バランス論を説明したものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の選択肢から選び、番号でそれぞれ解答しなさい。なお、選択肢には不要な語句も含まれている。※半角数値のみで解答すること。

IS バランス論とは、一国の貯蓄と投資の差によって、経常（貿易）収支を説明しようとするものである。GDP (Y) すなわち〔 ⑧ 〕は、

$$\text{消費 (C) + 投資 (I) + 政府支出 (G) + 〔 ⑨ 〕 (X) - 輸入 (M)}$$

$$\text{つまり、} Y = C + I + G + X - M \text{ ——— (1) 式}$$

この式は、その国で一定期間内に新たに生産された付加価値の合計を表している。同時に、この式は、生産された財が売れたという支出金額で集計されたものであり、売れたということは誰かの収入になっているわけである。収入は、消費 (C) に使うか、貯蓄 (S) するか、〔 ⑩ 〕 (t) するかを使い道を分けることができる。このことを式で表せば、

$$Y = C + S + t \text{ ——— (2) 式}$$

ということになる。(1) 式と (2) 式の左辺 Y の金額は同じなのだから、右辺同士をイコールで結ぶと、

$$C + S + t = C + I + G + X - M \text{ この式を変形すると、}$$

$$S - I - (G - t) = X - M \text{ ——— (3) 式}$$

を得る。(3) 式は、一国の貯蓄マイナス投資マイナス〔 ⑪ 〕が、経常（貿易）収支と等しくなることを示している。

選択肢

- 1 納税、 2 政府純支出、 3 付加価値、 4 国民総生産、 5 国内総生産、 6 貿易収支、
7 輸出

問 08. ⑧ への解答〔 〕

問 09. ⑨ への解答〔 〕

問 10. ⑩ への解答〔 〕

問 11. ⑪ への解答〔 〕

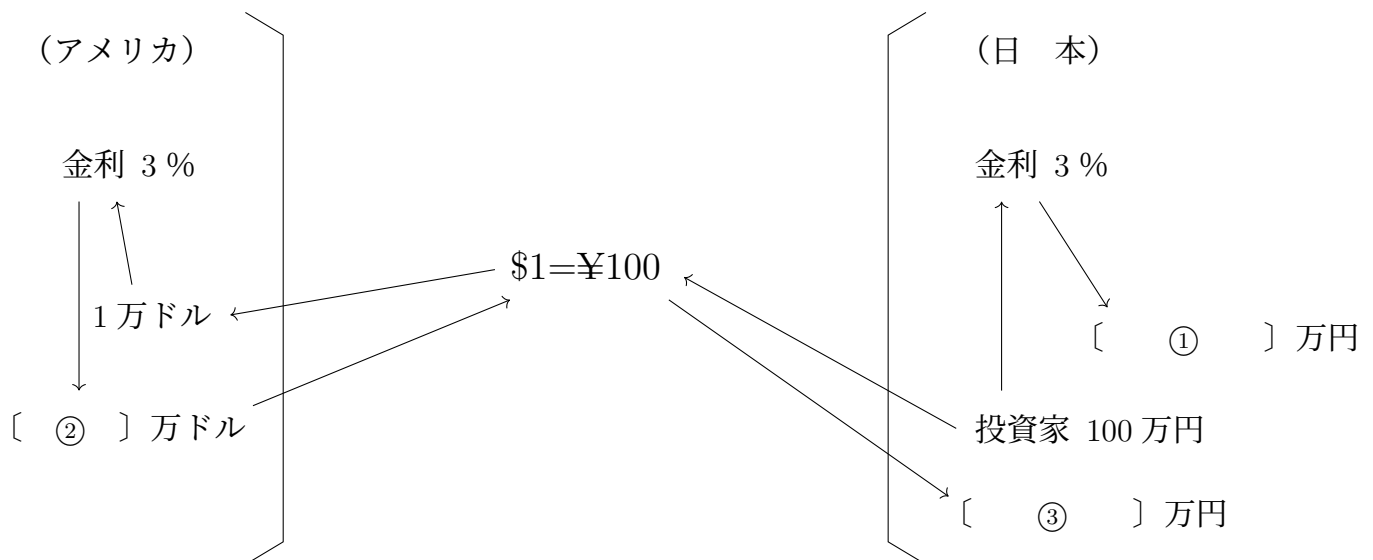
◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 13 回 設問

以下の図と文は、金利が高い国に資金が流入することを説明したものである。文中のそれぞれの〔 〕に入る、適切な数値を解答しなさい。※半角数値のみで解答すること。小数点はここでは半角のピリオドを使いなさい。



金利と為替レートの関係が上の図のとおりだとすると、日本の投資家が 100 万円を日本で運用すれば、年利 3 %なので、一年後には、〔 ① 〕万円になる。他方で、この 100 万円を上記の為替レートでドルに換えると 1 万ドルになるので、これをアメリカで運用すれば、〔 ② 〕万ドルになる。これを上記の為替レートで円に戻せば、〔 ③ 〕万円となり、日本で運用する場合とリターンは同じである。

この状態から、アメリカの金利が 5 %に上昇すれば、日本で 100 万円を金利 3 %で運用した結果は変わらないが、100 万円を 1 万ドルに換えてアメリカで運用すると、今度は、〔 ④ 〕万ドルになる。これを $\$1 = ¥100$ で円に換えれば、105 万円になる。つまり、日本で資金運用するよりも 2 万円得することになる。

この例では、金利が相対的に高い国で資金を運用するほうが利益が大きいので、日本の投資家はドル買い・円売りして、アメリカで資金運用しようとする。つまり、日本からアメリカへの資金流入が起きる。このように、金利が高い国には、外国から資金が流入する可能性がある。

問 01. ① への解答 []

問 02. ② への解答 []

問 03. ③ への解答 []

問 04. ④ への解答 []

\$1=¥150 が、\$1=¥200 へと急激に変化すると予想されているとする。以下の文は、それに対して、起きる為替投機を説明したものである。それぞれが正しければ 1 を、間違っていれば 2 を解答しなさい。

問 05. このレート変化は、円高になると予想されている。 ⇒解答 []

問 06. 現在がドル安、将来がドル高になると予想されている。 ⇒解答 []

問 07. 儲けの基本は、安く買って高く売ることである。よって、現時点でドル買い・円売りをしておき、レートが変化したら、ドル売り・円買いをすればよい。 ⇒解答 []

問 08. たとえば、150 万円を現在ドル買い・円売りして、レートが変化した後でドル売り・円買いすると、200 万円になる。50 万円の儲けが出るわけだから、儲けの率は、およそ 3.33 % である。 ⇒解答 []

問 09. 円に対する攻撃としての為替投機を防止しようとするならば、日本銀行が金利を引き下げるのが有効である。 ⇒解答 []

◎ 紙で提出する場合には、下に日付、学籍番号、氏名などを記入してください。

日付〔 〕 学籍番号〔 〕 氏名〔 〕

◎ サンプル答案として利用されることを望まない場合、レ点⇒□

第 14 回 設問

次の文章は、実質為替レートについて説明したものである。それぞれの〔 〕に入る最も適切な語句を選択肢から選び、番号で解答しなさい。※番号は半角数値のみで解答すること。なお、選択肢には不要な語句が含まれている。※丸囲みの数字が設問の番号である。

実質為替レートとは、財・サービスの〔 ① 〕を測るために、物価の変化を加味して調整された、計算上の為替レートのことである。言い換えれば、物価の変化を為替レートの変化に翻訳したものである。たとえば、為替レートが $\$1 = ¥100$ で、ある財 A の価格がアメリカで 10 ドル、日本で 1000 円とする。

物価のみ変化した場合：為替レートが不変のまま、日本で財 A が 2000 円に値上がりしたとする。アメリカの財 A を日本に輸入すれば 1000 円、日本の財 A をアメリカに輸出すれば 20 ドルとなり、日米どちらでも、日本の財がアメリカに比べて 2 倍の〔 ② 〕である。

為替レートのみ変化した場合：物価が不変のまま、為替レートが $\$1 = ¥50$ になったとしよう。アメリカの財 A を日本に輸入すれば 500 円、日本の財 A をアメリカに輸出すれば $1000 / 50$ ドル、すなわち、20 ドルとなり、やはり日本の財がアメリカに比べて 2 倍の高値である。

ということは、日本で物価が 2 倍になることは、円の対ドルレートが 2 倍に高くなることと同じだ。名目為替レートが $\$1 = ¥100$ のままだと、日本の物価が 2 倍になったのならば、 $\$1 = ¥50$ になったことと、実質的に同じなのだ。つまり、日本の物価が上がるということは、円高になって、為替レートの円側の数値が〔 ③ 〕なることと同じ。

別の例で説明する。為替レートが $\$1 = ¥100$ で、ある財 A の値段がアメリカで 1 ドル、日本で 100 円とする（つまり、日米の物価が等しい）。この状態から、日本の物価のみが 10 % 上がって、財 A が 110 円になったとする。これを $\$1 = ¥100$ のレートでアメリカに輸出すると、 $110 / 100$ ドル、つまり 1.1 ドルとなる。アメリカの財 A が 1 ドルなので、日本の財 A はアメリカより

も 1.1 倍の値段である。

この「10 %のインフレによって、日本の財の値段がアメリカの 1.1 倍になった」ことを為替レート変化に翻訳するということは、「物価は〔 ④ 〕のまま、円レートが 10 %高くなった」ことと同じだ。たとえば、財 A の価格がアメリカで 1 ドルのままで、日本で 100 円のままであるものの、為替レートが $\$1 = ¥100 / 1.1$ と 10 %の〔 ⑤ 〕になれば、日本の財 A をアメリカに輸出すると、 $100 \text{ 円} \div \text{為替レート}$ すなわち $100 \div (100 / 1.1) = 1.1 \text{ ドル}$ となり、上の説明と同じ結果になる。

結局、〔 ⑥ 〕為替レートを計算するときは、日本の物価が α 倍になったのであれば、為替レートを α で割ればよい。同様に、アメリカの 1 ドルの財 A が 10 %値上がりして、1.1 ドルになれば、 $\$1 = ¥100$ のレートで日本に輸入すれば 110 円となり、日本の財 A の価格 100 円に対して、1.1 倍。このことと、財 A の価格は不変のままで、10 %の円安が起きて $\$1 = ¥110$ になることは同じ。なぜなら、アメリカの 1 ドルの財 A を日本に輸入すると、今度は 110 円となり、日本の財 A の 1.1 倍の値段である。つまり、アメリカの物価が β 倍になったのであれば、為替レートに β を〔 ⑦ 〕よい。よって、実質為替レートの公式として、以下を得る。

$$\text{実質為替レート} = \text{名目為替レート} \times \frac{\text{アメリカの物価変化}}{\text{日本の物価変化}}$$

選択肢

1 円高、 2 円安、 3 大きく、 4 掛ければ、 5 可変、 6 国際競争力、 7 実質、 8 実効、
9 高値、 10 足せば、 11 小さく、 12 不変、 13 安値